

生駒市医療介護連携ネットワーク協議会
認知症対策部会
令和6年度活動報告書

令和7年7月

生 駒 市

生駒市医療介護連携ネットワーク協議会 認知症対策部会

目 次

1 はじめに	1
2 認知症対策部会の役割	2
3 認知症対策部会の開催	2
4 令和6年度の具体的な取組み	3
5 令和7年度の計画	7
資料1 認知症対策部会の設置及び運営に関する規程	8
資料2 令和6年度認知症対策部会委員名簿	10

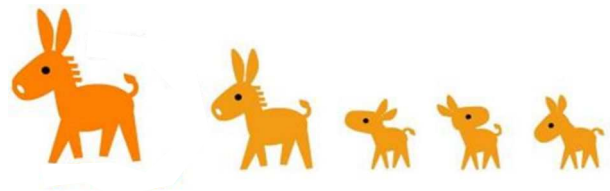
Ⅰ はじめに

本市では、いわゆる団塊の世代が75歳以上となる令和7年（2025年）を目途に、介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される地域包括ケアシステムの深化・推進を図ってきた。

特に医療・介護・予防サービスの提供体制の構築においては、平成28年3月から「生駒市医療介護連携ネットワーク協議会」を立ち上げ、「在宅医療介護推進部会」及び「認知症対策部会」を設置し、その取組を推進してきたところである。

令和6年度の認知症対策部会においては、実際に認知症当事者の声から本人視点の支援に立ち返る「多職種連携研修会」を開催することができた。また、いわゆる団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年を見通すと、80歳以上人口が急速に増加し、医療と介護双方のニーズを併せ持つ認知症等高齢者の増加が見込まれることから、認知症の人に焦点をあてて、2040年を見据えた生駒市の目指すべき姿と実現までのロードマップ及びPDCAを実行するためのロジックモデルを作成し、次年度以降、具体的な取組を進めていく。

令和5年度には、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が制定され、これに基づき、令和6年12月には国の認知症施策の基本計画「認知症施策推進基本計画」が閣議決定されたところであり、認知症になってからも、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという「新しい認知症観」に立って、認知症の人が自らの意思によって、多様な主体と共に、日常生活及び社会生活を営むことが出来る共生社会の実現を目指し、生駒市でも、認知症の人や家族等の参画を得ながら、認知症施策を推進していく。今後とも、医療・介護関係者の情報共有は基より、生駒市全体で相互理解を深め、患者・利用者が医療や介護の切れ目なく、サービスを利用できる体制の構築及び関係者の質の向上と市民啓発に努めていきたい。



2 認知症対策部会の役割

認知症対策部会においては、下記①～⑤の内容について、部会員から意見や助言を求めるものである。

- ①認知症の普及啓発に関する事項
- ②認知症予防に関する事項
- ③認知症ケアの向上に関する事項
- ④多職種連携に関する事項
- ⑤生駒市認知症初期集中支援チームに関する事項

3 認知症対策部会の開催

開催年月日	会議の案件
【第1回】 令和6年7月5日	(1)令和6年度認知症対策部会活動予定について (2)医療と介護の連携強化に向けた取組の検討 (3)その他 カフェいこいの啓発ちらしについて 認知症啓発月間の啓発事業(案)について
【第2回】 令和6年11月20日	(1)認知症月間等における啓発事業・多職種連携研修会のご報告 (2)医療と介護の連携強化に向けた取組みの検討
【第3回】 令和7年2月26日	(1)前回の検討内容整理 (2)生駒市認知症初期集中支援チームの実績報告 (3)令和6年度認知症対策部会活動報告書(案) (4)令和7年度の取組内容について

4 令和6年度の具体的な取組

(1)ロードマップ及びロジックモデル

医療・介護ニーズを併せ持つ高齢者が益々増えていくと見込まれる中、第9期介護保険事業計画において①日常の療養支援 ②入退院支援 ③急変時の対応 ④看取りの4つの場面に応じた医療と介護の連携体制を促進するとし、これら4つの場面において「認知症」に焦点を当て、2040 年を見据えた生駒市のめざすべき姿と実現までのロードマップ作成及びPDCA を実行するための「ロジックモデル」を作成した。

「指標」は毎年度末に部会にて評価を実施し、進捗状況によっては、必要に応じて見直しを実施する。

ロードマップ

最終的に達成したい状況(2040年)					
本人が望む場所での生活が可能であり、専門職、担い手、サービスの受け手、誰もが暮らしやすくなっている					
取組	具体的取組	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
実態把握	施設の認知症高齢者の受入れ状況	令和9年の状態			
	産科医の認知症患者に対する対応状況	医師・ニーズの高い、認知症の人を受け入れる介護事業所が増えている。			
	認知症高齢者及び介護者家族等のニーズ把握	認知症患者に対応できる産科医医師が増えている。			
	医療従事者等による介護施設やグループホームの見学・意見交換	認知症の対応像や医療ニーズに応じた社会資源がある。			
	医師、薬剤師、看護師、医療従事者向け、認知症対応力向上研修の受講促進	認知症を有する方の認知症向け、医療・介護関係者等が当事者の強みをサポートできる体制が整えられるよう、意識向上支援が重ねられている。			
スキルアップ研修	かかりつけ医の対応力向上研修の受講促進	病院・施設内において認知症患者の対応(BPSD等)に熟知したスタッフが揃っている。			
	医療・介護従事者向け研修会の実施(BPSD等への対応)	認知症当事者及び家族への初期対応ができる医師が身辺にしている。			
	医療機関・介護施設の有資格者やケアマネ、包括支援員等に応じた認知症サポーター養成講座の実施	病院・介護施設等において認知症患者の対応(BPSD等)に熟知したスタッフが揃えてい			
	認知症と病状を踏まえた入院調整	認知症の対応が強くても、診療科の調整がスムーズに回られ、入院ができている。			
	医療ニーズが高い、認知症の方へのケア	急変時のことや胃ろう留置などの状況を想定し、当事者及び家族の意向を定期的に確認する医療介護従事者が増えている。			
多職種連携研修会	認知症を有する人への看取りやケア	中等度の認知症との当事者であっても、表情・態度・行動からサインを読み取り、急変を見逃さないスキルを身につけた医療・介護スタッフが揃っている。			
	医療介護従事者向け意思決定支援	認知症当事者が自ら意思決定できる支援力向上に向けている医療・介護従事者が、日常生活自立支援事業や成年後見制度など、認知症当事者が必要な状況に応じてサービス利用ができている。			
	医療ニーズの高い、認知症高齢者の意思決定支援の促進	認知症の対応が強くても、診療科の調整がスムーズに回られ、入院ができている。			
	入院調整マニュアルの運用	急変時のことや胃ろう留置などの状況を想定し、当事者及び家族の意向を定期的に確認する医療介護従事者が増えている。			
	在宅サービスを提供する事業所の整備	多様なニーズに対応できる在宅サービスが充実している。			
周知・啓発	認知症サポーター要、認知症地域支援推進員の周知・連携	不安や混乱する頻度が減少し、望む場所でも過ごせる期間が延びている。			
	認知症に関する相談窓口の充実、認知症ケアパス改訂、周知・チームオレンジ(認知症支援)活動の周知	入院調整において、ケアマネ等と病院担当が、認知症患者の情報(症状や特性)をタイムリーに共有し、活用できている。			
	知財権・支援者・の活動を有効に活かすための啓発活動	多様なニーズに対応できる在宅サービスが充実している。			
	認知症に関する相談機関(認知症地域支援推進員、専門ダイヤル、若年性認知症サポートセンター)についての周知徹底	認知症を有する方の認知症向け、医療・介護関係者等が当事者の強みをサポートできる体制が整えられるよう、意識向上支援が重ねられている。			
	医療・介護事業者は認知症認知別・症状別対応マニュアルを周知し活用促進	認知症当事者及び家族等介護者への情報が行き届いている。			
本人の意思決定支援	認知症に、関心を持つ地域住民を増やすため、認知症に関する相談窓口の充実、認知症ケアパス改訂、周知・チームオレンジ(認知症支援)活動の周知	関係機関・多職種が連携し、疾病の予防・早期発見・重症化防止等、早期支援体制が強化されている。			
	定期的な当事者・家族のミーティングや対話の実施	当事者や家族等が気軽に認知症に関する相談ができている。			
	医療・介護関係向けに、希望を叶えるヘルプカードの活用等の周知	認知症の初期・中期・後期に応じたケア・対応方法を理解し、正しい状況を提供できる医療・介護事業者が生計圏域に存在する。			
	認知症に関する相談窓口の充実、認知症ケアパス改訂、周知・チームオレンジ(認知症支援)活動の周知	近隣住民が認知症を理解し、偏見を減らすことも関心を持ち声をかけられる、又は地域包括支援センターへ相談することができ、支援に繋がることできている。			
	認知症に関する相談窓口の充実、認知症ケアパス改訂、周知・チームオレンジ(認知症支援)活動の周知	当事者・家族が相談できる場や認知症の取組について意見できる場が増えている。			

□ジックモデル

期次	令和12年の計画（中野アワード）	計画	進捗
第1	認知症の人が安心して暮らせることができる地域が望んでいる。		本人が望む場所での生活が可能であり、専門職、担い手、サービスの受け手、誰もが暮らしやすいとなっている。

項目	令和4年の状況（前年度より変化）	指標
体制整備	<p>旧PSで認知症の有益性が強くても、診療科の割割がスローに回られ、入割ができていない。</p> <p>多職種・多機関連携</p> <p>人間関係において、ケアチームと看護部担当者、認知症患者の情親（症状・特性）をチームとして共有し、共有されている。</p>	
人材育成・スキルアップ	<p>病室、地域内において認知症患者の対応（BPS等）に熟知したスタッフが揃えていない。</p> <p>認知症に関する多くの問題にたいし、既卒、介護職員等が社会福祉士資格を有し、サポートでできる体制が整えられるよう、意識改革を推進している。</p>	
情報収集		
認知症	<p>認知症患者及び家族等介護者への情報が行き届いている。</p>	

[illegible]

【日常の療養支援】

2	認知症の人が生活していた地域で、疾患、介護歴に応じた多職種協働による医療・ケアを受けることが出来る	
---	---	--

<p>図解一：ズの類、認知症の人を助けられる介護職員が増えている。</p> <p>当事者：家族が相談できる場や認知症の取組について意見できる場が増えている。</p> <p>認知症の状態や介護要一：ズに応じられる介護者があふ。</p> <p>介護者のこころのケア：認知症のこころの状態を把握し、当事者及び介護者の働きを支援的に援助する医療・介護従事者が増えている。</p> <p>多様な一：ズに対応できる在宅サービスが充実している。</p>

<p>施設での認知症高齢者の受け入れ状況の把握</p> <p>認知症の当事者、家族のミーティング対 話の頻度</p> <p>認知症高齢者及び介護者家族等のミー ティングを把握</p> <p>多職種連携体制の推進</p>	<p>研修参加回数</p> <p>開催回数</p> <p>開催回数</p>
---	---------------------------------------

<p>感染症対策、急病時の運搬、疾病の予防、早期発見、重症化防止等、早期支援体制が構築されている。</p>	
<p>人材育成、スキルアップ</p>	
<p>認知症当事者及び家族への初期対応ではある医師が身近にいる。</p>	
<p>認知症各病に対応できる専門医師が増えている。</p>	
<p>認知症の知識・介護、生活に関与した人材育成を積極し、若い世代に提供できるように介護職員や生活福祉士に力を入れている。</p>	
<p>認知症に患者が自ら参加し決定できるように能力向上に取り組んでいる。医療・介護従事者が力。</p>	
<p>日常生活自立支援事業費や成年後見制度など、認知症当事者が必要な状況に応じてサービス利用が広がっている。</p>	
<p>病院・介護施設等において認知症患者の対応(BPSD等)に特化したスタッフが増えている。</p>	

[illegible]

【急変時の対応】

3	急変時に認知症の人が望む医療・ケアを受けることができる
---	-----------------------------

中等度の認知症の当事者であっても、表情・態度・行動からサインを読み取り、急変を見逃さないスキルを身につけた医療・介護スタッフが増えている。

【看取り】

4	認知症の人が住み慣れた自宅や介護施設など本人が望む場所での看取りの医療、ケアを受けることができる
---	--

	不安や混乱する傾向が減少し、望み場所でも過ごせる期間が延びている。
	医療・介護従事者が本人が望む医療・ケアについて共有することができると。

(2) 認知症の普及啓発に関する事項

◇認知症カフェ「カフェいこいこ」の啓発

チラシを作成し、部会で共有した。啓発を継続していく。

◇認知症に関する市民フォーラム

第1部として、映画「オレンジ・ランプ」の上映、第2部に「認知症の早期発見・予防について」をテーマに講演いただいた。

日 時:令和6年9月21日(土) 午後1時～4時

場 所:生駒市コミュニティセンター 文化ホール

内 容:「認知症の日」に考える 認知症との向き合い方

講 師:(一財)信貴山病院ハートランドしぎさん 医長 田村高志さん

参加者数:152人



令和6年度 認知症に関する市民フォーラム

9月21日「認知症の日」に考える

認知症との向き合い方

定員250人:先着順

25歳以下無料！
参加料 500円 (受付12:00～)

令和6年 9月21日(土) 13:00～16:00
生駒市コミュニティセンター1階文化ホール

※生駒市役所駐車場に利用したいですが、自前には限りがあります。
できるだけ公共交通機関をご利用ください。

第1部 13:00～14:50
映画「オレンジ・ランプ」上映

※「オレンジ・ランプ」は、実在した日々を送る
カーティス・ワイルドマン、そんな日に、妻の命を失うこと
の真実が隠れる。下された診断は、「若年性アルツハイマー型認知症」
聞き、戸惑い、不安に押しつぶされていく。妻は、とうとう道徳も崩壊
する。心臓の裏で埋めておいた秘密が、いつか、ある日
がきっかけで二人の意識が変わる。「人生を諦めなくていい」と気づいた
妻は突然走り出し、世界が変わっていく。

主演:真地希志、和正人

第2部 15:00～16:00
認知症サポート医による講演

テーマ: 認知症の早期発見・予防について

講 師:(一財)信貴山病院 ハートランドしぎさん 医長 田村高志 氏

申込方法 9/9～申込開始！
①WEB <https://logform.jp/form/820h/643760>
②電話 0743-74-1111 内線2920

主催:生駒市役所 介護連携ネットワーク協議会
お問い合わせ:生駒市地域包括ケア推進課 0743-74-1111 内線2920

(3) 多職種連携に関する事項

◇令和6年度多職種連携研修会

内 容:「意思決定支援のあり方」～当事者の声から本人視点の支援に立ち返る～

講 師:オレンジドア代表 丹野 智文さん

福岡県若年認知症サポートセンター センター長 阿部 かおりさん

日 時:令和6年10月10日(木) 午後6時～8時

場 所:生駒市役所大会議室

参加者数:44人

資料Ⅰ 認知症対策部会の設置及び運営に関する規程

認知症対策部会に関する規程

(趣旨)

第1条 生駒市医療介護連携ネットワーク協議会開催要綱第6条第1項の規定に基づき、関係機関に意見を求めるために認知症対策部会（以下「部会」という。）を設ける。

(協議事項)

第2条 部会において意見又は助言を求める事項は、次のとおりとする。

- (1) 認知症の普及啓発に関する事項
- (2) 認知症予防に関する事項
- (3) 認知症ケアの向上に関する事項
- (4) 多職種連携に関する事項
- (5) 生駒市認知症初期集中支援チームに関する事項

(部会長等)

第3条 部会に部会長及び副部会長を置く。

- 2 部会長は部会員の互選により定め、副部会長は部会長が指名する部会員を持って充てる。
- 3 部会は部会長が招集する。
- 4 部会長は、部会の事務を総理し、部会の調査、検討の結果を協議会に報告する。
- 5 副部会長は、部会長を補佐し、部会長に事故があるときは、その職務を代理する。
- 6 部会長は、必要があると認めるときには、部会の会議に部会員以外の者の出席を求め、意見を聴き、又は説明を求めることができる。

(庶務)

第4条 部会の庶務は、地域包括ケア推進課において処理する。

- 2 部会における会議の内容は、地域包括ケア推進課において記録し、文書化する。

(施行の細目)

第5条 この規程に定めるもののほか、部会に必要な事項は、参加者に意見を求めた上で定める。

附 則

（施行期日）

- 1 この要綱は、平成31年4月1日から施行する。
（認知症対策部会の設置及び運営に関する規程の廃止）
- 2 認知症対策部会の設置及び運営に関する規程（平成28年6月1日施行）は、廃止する。

部会構成員

生駒市医師会

生駒市内病院

生駒市歯科医師会

生駒地区薬剤師会

訪問看護ステーション

地域包括支援センター

居宅介護支援事業所

訪問介護事業所

郡山保健所

その他市長が必要と認める者

資料2 令和6年度認知症対策部会委員名簿

(順不同。敬称略)

氏 名	役 職 等	関係機関名
山上 正仁	一般社団法人生駒市医師会	生駒市医師会
太田 亜裕美	近畿大学奈良病院 患者支援センター	生駒市内病院
徐 典代	医療法人和幸会阪奈中央病院 リハビリ科 作業療法士副技師長	生駒市内病院
川田 和弘	医療法人社団松下会白庭病院 副院長	生駒市内病院
霜田 吉見	生駒市歯科医師会 会長	生駒市歯科医師会
古田 佳子	有限会社アール アール薬局生駒駅前南店	生駒地区薬剤師会
新谷 由美	一般社団法人イーデンホール 訪問看護ステーションくるみ	訪問看護ステーション
小津 典恵	生駒市メディカル北地域包括支援センター	地域包括支援センター
中田 エミ子	社会福祉法人 宝山寺事業団 居宅介護支援センター延寿 主任	居宅介護支援事業所
中村 幸子	社会福祉法人 生駒市社会福祉協議会	訪問介護事業所
山内 昌子	奈良県郡山保健所 健康増進課 係長	郡山保健所
竹田 幸代	グループホームさくら 施設長	その他市長が必要と認める者
笹本 奏	生駒市梅寿荘地域包括支援センター	その他市長が必要と認める者